



5分間の紙芝居上演の  
動画はこちらから

## 戦争のはなし

絵 みちがみとしお  
監修 小池 睦美



絵の作者 みちがみとしお  
道上俊夫さん

この紙芝居は、「戦争のはなし」文集から、高萩に関する内容を  
分かりやすくまとめたものです。公民館活動を通して出会ったイラ  
ストの上手な道上さんに、場面に合わせた絵の作成をお願いして  
完成しました。

市ホームページの動画コンテンツから上演もご覧いただけます。  
また、市立図書館にて貸し出しも行っています。



「欲しがりません。勝つまでは。」  
これが合言葉。  
辛いこと、苦しいことも我慢して日本が勝つこ  
とを信じ、疑いませんでした。



おなかと背中がくつつきそう。  
おなかグーグーなっても我慢します。  
へび、かえる、いなご、すずめ、どじょう、たにし。  
生きるためには食べるしかありません。



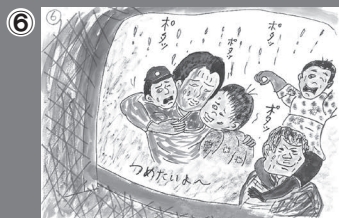
外で遊んでいる時、突然、敵戦闘機グラマンが  
低空飛行で近づいてきました。  
機銃掃射。弾が縦一列にダダダ…。  
慌てて防空壕に飛び込みました。  
今でも操縦士の表情を思い出します。



敵機の目標にならないよう、夜は電灯を黒い布で覆います。  
サイレンが鳴り響くと、暗闇の中じっと静かにしています。  
雨が降りしきる1945年7月19日の夜中。  
突然、ドッカーンバリバリバリという大きな音。  
体が布団と一緒に突き上げられ、衝撃で目が覚めました。



高萩の海に浮かぶ軍艦から大砲を撃つ艦砲射撃。  
「早く防空壕へ逃げろ〜」  
防空壕を目指して必死で走りました。  
ドッカーン バリバリバリ  
ドッカーン バリバリバリ



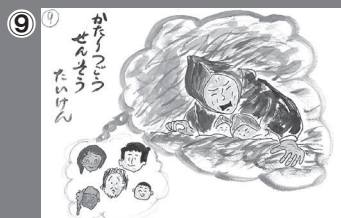
やっと防空壕に入ることができました。  
しかし、中は地下水の湧き水がたまっていました。  
肩車してくれたおじいちゃん、ありがとう。  
「今日はもう大丈夫だ。助かったから安心しろ。」



まちを焼き払うための爆弾、焼夷弾もここ高萩  
に落とされました。高萩小学校から高萩の駅が、  
ぼつんと見えるほど、まちが焼かれました。  
「これからどうしたらよいのだろう。」



1945年8月15日 戦争は終わりました。美味し  
いものが食べられる、きれいな洋服を着られる。  
そんな生活は、まだ夢の話。



70年が過ぎても戦争を思い出すと、心が重くな  
ります。これからの未来を生きていく人たちに  
は、絶対に戦争を体験させたくありません。



幸せな未来を歩まれることを願います。

### 平和を語り継ぐ会「そら」

戦争の悲惨さと平和の大切さを伝えるため、8名  
で活動しています。紙芝居のほかに戦争や平和に関  
する作品の朗読など、学校やサロン、施設等に応じ  
て公演します。

ご依頼の場合は、中央公民館へお問い合わせく  
ださい。



■問合せ 中央公民館 ☎23-1125